

孤立する人のない街に

もみじ台地区と厚別中央地区にみる 民児協と福まちの協力



もみじ台地区民生委員・児童委員協議会
会長 小飼八洲紘さん



もみじ台地区主任児童委員
池田 雅子さん



もみじ台地区民生委員・児童委員協議会
前会長 野村 秀雄さん



厚別中央地区福祉のまち推進センター
総務部会長 松島 民世さん



厚別中央地区福祉のまち推進センター
センター長 木谷 裕さん



厚別中央地区民生委員・児童委員協議会
会長 西根由美子さん

福まちのトップも兼ねる民児協会長

もみじ台地区民生委員・児童委員協議会（民児協）の小飼八洲紘さん（75歳）は、サラリーマン生活を終えた9年前から民生委員・児童委員をしています。自治会長の経験はあるものの、どちらかという会社人間だった小飼さん。それでも父や兄が民生委員をしていたこともあり、抵抗なく引き受けることができたといいます。

3年前、当時の会長だった野村秀雄さん（79歳）から後任の会長として指名を受けた際、もみじ台地区では民児協の会長が地区の福祉のまち推進センター（福まち）の運営委員長も兼ねていることを知らされました。

民生委員法に基づき、厚生労働大臣の委嘱を受けて特別地方公務員として職務を行う民生委員・児童委員。もみじ台地区民児協は45人の委員が所属する区最大の組織です。一方、高齢化率が高く、さまざまな課題を抱えるもみじ台地区社会福祉協議会（東健二郎会長）の実働部隊に位置づけられる福まち。同じボランティアでも、立場や担う範囲が微妙に違う両者のトップに立つのです。

前任の野村さんは「私が福まちの運営委員長になった10数年前は、どちらかという名ばかりの組織でした。これではいかんと思い、福祉に関して知識や経験の豊かな現役の民生委員やそのOBにも声を掛け、実行力のある福まち

もみじ台地区福祉のまち推進センター

住所：厚別区もみじ台北7丁目 もみじ台管理センター内
（毎週月曜日、10時～15時※来所のみ（011）898-6701）
福まち不在時の電話：（011）897-6121（もみじ台まちづくりセンター）

事務局をつくりました。」と振り返ります。そうした努力とリーダーシップが実を結び、民児協と福まちの協力体制が出来上がりました。

双方の強みを活かせる関係に

池田雅子さん（62歳）は、中学校のPTA活動がきっかけで、6年前にもみじ台地区の主任児童委員になりました。池田さんは「主任児童委員の活動では、福まちや町内会との協力関係が大事です。その意味で、小飼会長が民児協と福まち双方の立場で幅広いネットワークと影響力をお持ちなのは心強いです。」といいます。

中学校の相談支援パートナーもしている池田さん。ある学校で不登校気味の子どもを迎えに行った際、その子の家でごみ屋敷ともいえる不衛生な家庭環境にあることに気がつきました。会長に相談し、福まちと区の社会福祉協議会に支援を要請。そこからさらに行政や関係機関、ボランティア組織につながって解決への道筋ができました。

小飼さんはいいます。「権限と責任が明確な民生委員・児童委員。ややフリーな立場で、もみじ台見守り隊の活動のように地域福祉の輪を広げる福まち。双方の良さをもっと活かせるようにしていきたいと思います。そのためにも、町内会など多くの方々に福まち活動に参加していただけると心強いです。」

夫に背中を押されて30年

「民生委員になって30年。厚別区の歩みと一緒に。」と語る厚別中央地区民生委員・児童委員協議会会長の西根由

美子さん（76歳）は、たまたま地域の会合に出席したのがきっかけで、民生委員就任の誘いを受けました。子育ての真っ盛りだったこともあって、迷いながらご主人に相談。「人の役に立つのもいいんじゃないか。」と背中を押された西根さんは、1989年、厚別区誕生とほぼ同じ時期に民生委員・児童委員になりました。

会長に就任して12年、会長代行時代も含めると18年間民児協のトップとして会の運営に携わってきました。「私が民生委員になった頃は、生活保護世帯への支援が主でした。その後、一人暮らしの高齢者や障がい者宅への訪問、さまざまな福祉相談に加え、児童虐待や不登校など児童委員としての役割も高まってきました。」と振り返ります。

厚別中央地区福祉のまち推進センターで総務部会長を務める松島民世さん（73歳）は、16年ほど前、福まちの方から一緒にやってみないかと誘われ、参加しました。

「当時の福まちは、見守り活動はまだ始まっていませんでしたが、公園散策や茶話会などの行事が活発で、それは今も続いています。」と松島さん。「あの頃は、福まちの事務所がJR厚別駅近くにあり、近所の来訪者も多くてサロンのような感じでした。」福まちでは、困り事の相談も受けており、専門知識のある民生委員にも交代で来てもらっていたといいます。

地域への思いは同じはず

個々には福まちのスタッフと民生委員の良好な協力関係がありましたが、組織的にはその役割や進め方を巡り、意見が合わないこともあったといいます。

「民生委員と福まちはどっちが偉いんだ。」つい感情的になってしまつての発言が民児協会長の西根さんの耳にも入り、「地域福祉への思いは一緒なのに」と心を痛めました。

厚別中央地区福まちの木谷裕センター長（76歳）も、5年前に就任早々、そうした状況を目の当たりにしました。「町内会も福まちも、民生委員・児童委員も、地域をより良くして行こうという思いは同じはず。トップが率先して協力し合わなければ。」と、より積極的な交流や情報交換を西根会長に呼び掛けました。

厚別中央地区は町内会組織がしっかりしており、福まちや民児協だけでなく、町内会の福祉部門でも見守りやサロンなどへの独自の取り組みが見られる意識の高い地区。地域の隅々まで活動エリアを持つ福まちのスタッフや町内会の福祉推進員。特別職の公務員として委嘱を受け、より専門性のある民生委員・児童委員。立場や考え方の違いがあるのは当然のこと、それを互いに理解し合って乗り越えようという試みがなされました。

今はそれぞれの組織内の方針や考え方が、トップを通じて共有され、円滑な連携がなされています。

「だれもが住み慣れた地域で、孤立することなく安心して暮らせる」——個人や組織の立場、考え方は多少異なっても、願いは皆同じ。両地区の試みが注目されます。

厚別中央地区福祉のまち推進センター

住所：厚別中央4条3丁目 厚別信濃会館1階
（毎週月・水・金曜日、10時～12時）
電話：（011）890-0010